

朗和基督教會週報 第百十九號
 二月二十二日

發行主任 白石 浩
 本週本報日發行

◎今週の標語
 ひろく人民。馬に
 九に人。人すむ。
 滅びぬは。はら。
 益す。
 (ヨハネ傳
 工、五。)

- ◎諸集會案内
 讚美會、毎木曜夜七時半
 教會にて
- ◎放竹村兄弟傳會、廿三日(金)
 午後七時半 教會堂にて
- ◎日曜學校教師會、廿三日(金)
 午後七時半 教會事務所
- ◎婦人公任事會、廿四日(土)
 午後二時 教會事務所
- ◎婦人會役員會、廿五日(日)
 禮拜直後 教會堂にて

- ◎傳道說教會、廿五日(日)
 午後七時半
- ◎東會館、ヨ今者
 說教 神原 牧師
- ◎北會場、ヨ今者
 說教 佐々木 牧師
- ◎聖書研究會、廿七日(火)
 午後七時半 事務所 神原 牧師
- ◎信徒有志懇談會、廿七日(火)
 午後七時半 九一五F 奉牧師也
- ◎同業同好、聖書研究會、臨時休講

- ◎聖日禮拜順序
 二月廿五日、午後二時、教會堂
 司會 佐々木 牧師
- 頌 榮 (五二六)
- 招拜及招待
 讚美歌 (三六)
- 聖書詳讀 (ヨハネ十四、一七)
- 詩 禱
- 讚美歌 (二二八)
 設 放 平原 中枝
 「時は来た」
- 祈 禱
 讚美歌 (二五九)
- 報 告
 頌 榮
 祝 禱
- ◎青年部諸集會
 禮拜一廿五朝十時五分 教會
 司會 ヤマロト 師
 設教 坂上 牧師
 「生命の尊貴」(マテ、一)
- ◎Y.P.C.F. 同業七時半 教會
 經 典
 ミス フロレンス サバチ
 シオン市の社会事業成就地
- ◎C.Y.F. 同業同好
 司會者 伊藤 大レイ
 「倉庫内に於ける基督者生活」
- ◎祈禱會、二月廿日夜、例會、祈禱
- ◎日曜學校、廿五日(日)
 金、校 十時九時
- ◎學徒、神の子イエス
- ◎本文、イコリ、十六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

◎社會的福音に就て
 券 左 右

第一、吾界大戰後、後進に於ては、米國式基督教を批難する聲が滿ちて居た。一九二三年にアル・ホル牧師は「經驗と知識と信仰」と題する小冊子を出版して米國式宗教を批難して居る。其後、彼の宗教雜誌には米國式基督教と云ふ語が盛んに現はれ、たゞであつた。米國ではケレ、氏がクリスチヤン・エンチユリー誌上で反駁を試みたものである。ケレ、氏の論旨の大意は「魚が水中に泳いで水を意識せず、鳥が空中に飛んで空を意識せざるや如く、我等は所謂米國式宗教と云ふものを意識しないかも知れぬ。我等は社會的福音のせむぎ(と云ふ空氣の中に生活して居る。天國に就て踏るよりも寧ろ此世を神の國と見さんか爲に働いて居る。抑も個人間、階級間、人種

間及び國際間の平和と云ふことは單に政治上の問題では無く、宗教上の問題である。夫れはキリストの愛を實行する時に始めて解決し得らるゝものである。神は食民衆、同盟罷工、壓制又は奴隸制度を此地より排除すること、所望み給ふ。而して我等は此等の社會制度の改善の爲に神と偲んで働くことを名譽とするものである。之が米國の基督者か呼ばれたる所の空氣であつて、眞實なる基督者生活であると信ずる。政州大連の教會は米國の教會には壯嚴なる禮拜や神祕的敬虔の念に缺けて居る。奧妙を研究的の神學上の問題や聖書の奧義は教理より聴くことが出来まいと批難して居る。我等は政州の教會に向つて、若し教會が社會と基督教とを離れて世界を修養の巻と信ずること無かりしやうと及

